



JAESCO ビジョン

－ESCO・エネルギー・マネジメントの未来に向けた取り組み－

2026 年5月

一般社団法人

ESCO・エネルギー・マネジメント推進協議会

Japan Association of Energy Service Companies : JAESCO

JAESCO ビジョン

－ESCO・エネルギーマネジメントの未来に向けた取り組み－

はじめに

我が国における ESCO 事業およびエネルギーマネジメントの取り組みは、地球温暖化対策やエネルギーコスト削減といった社会的要請を背景に、建築物や工場等において広がりを見せてきました。近年では、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みが加速する中で、既存の建築物や施設の省エネルギー化やライフサイクル全体での CO₂ 削減など、ESCO・エネルギーマネジメントに期待される役割は一層多様化しています。

こうした変化の中で、ビルオーナーや事業者から求められる価値も、単なる省エネルギー効果にとどまらず、資産価値の向上や ESG への対応などへと広がりつつあります。また、制度や技術、社会的要請も急速に変化しており、ESCO・エネルギーマネジメントを取り巻く環境は、これまで以上に不確実性の高い局面を迎えています。

このような状況を踏まえ、JAESCO では、中長期的な視点から協議会としての考え方や役割、今後の取り組みの方向性を共有するため、「JAESCO ビジョン」を策定しました。本ビジョンは、将来像を固定的に示すものではなく、変化の中で判断や対話の拠り所となる道標として位置づけられるものです。社会や制度、技術、さらにはビルオーナーや事業者からの要請を的確に受け止めながら、必要に応じて見直し、継続的に更新していくことを重視しています。そして、その柔軟性こそが、変化の激しい時代において JAESCO が信頼され、期待に応え続けるための基盤であると考えています。

本ビジョンが、会員各位をはじめ、ビルオーナー、事業者、行政、関係団体など多様なステークホルダーにとって、JAESCO の立ち位置や取り組みを理解する一助となり、ESCO・エネルギーマネジメントのさらなる価値創出に向けた対話と共創の出発点となることを期待します。

1. JAESCO の歩みと現状

JAESCO は 1999 年の設立以来、ESCO の普及促進に継続的に取り組み、我が国における省エネルギーシステムの発展に寄与してきました。2016 年からは、活動領域をエネルギーマネジメントへと広げ、建築物や工場等における省エネルギー・省 CO₂ の取り組みを幅広く支えてきました。

ESCO 事業においては、「効果保証 (Performance Contract)」および「削減金額からの支払い (Pay from Savings)」という特徴的な仕組みを通じて、省エネルギー投資の普及を後押ししてきました。これらは現在も「伝統的 ESCO サービスモデル」として広く採用されており、ESCO の基盤を成す考え方として位置づけられています。

一方、長年にわたる ESCO 事業の展開の中で、JAESCO の会員各社は、社会や市場の変化に応じて新たなビジネスモデルを開発・推進してきました。「エネルギーサービス」「受託サービス」「設備改修型 ESCO サービス」など、いわゆる「進化系 ESCO サービス」は、近年では伝統的 ESCO サービスを上回る規模にまで成長しています。

また、2016 年以降、エネルギーマネジメントについても本格的に取り組み、システムの導入とデータ分析を両輪として、省エネルギーの着実な実現に貢献してきました。「計測なくして制御なし」と言われるように、エネルギーマネジメントは、あらゆる省エネルギー施策の基盤を成すものであり、ESCO と並ぶ重要な取り組みとして位置づけられ、発展を続けています。

JAESCO は、会員サービスの充実や事業環境の整備に取り組むとともに、会員企業の活動を通じて得られた知見や成果を社会に発信する役割を担っています。こうした歩みと現状を踏まえ、続いて、その基盤となる JAESCO の理念と基本方針について整理します。

2. JAESCO の理念と基本方針

2.1 理念

JAESCO は、デマンドサイドにおける実践知を基盤に、ESCO やエネルギーマネジメントの高度化と社会実装を推進する中立的なプラットフォームとして、持続可能なエネルギー利用と価値創出を支え、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

2.2 基本方針

JAESCO は、ESCO およびエネルギーマネジメントの基盤となる視点として、デマンドサイドに立脚した省エネルギー・省 CO₂ の推進を重視します。ステークホルダーごとに適切な情報提供と情報共有を行い、持続可能なエネルギー利用の定着を目指します。

(1) ビルオーナー・事業者に向けた情報提供

JAESCO は、建築物という資産の所有・管理を担うビルオーナーや、工場等の日常の運営を担う事業者に対し、ESCO およびエネルギーマネジメントの意義や効果、導入価値に関する情報を分かりやすく発信します。技術的側面に加え、経済性、資産価値、環境価値といった観点を含め、需要家の意思決定に資する情報提供を行うことで、デマンドサイドからの主体的な省エネルギーの取り組みを後押しします。

(2) 会員各社への情報提供と知見の共有

JAESCO は、会員各社に対し、市場動向、制度動向、技術動向等に関する情報提供を行うとともに、会員間の知見や経験を共有する場を提供します。競争領域と協調領域を適切に切り分け、JAESCO としての協調領域において連携を促進することで、会員各社の事業活動の高度化と、ESCO・エネルギーマネジメント分野全体の発展に貢献します。

(3) 施策立案・制度検討に資する情報提供

JAESCO は、会員各社の実務を通じて蓄積された知見や課題を整理し、行政や関係機関による施策立案や制度検討に資する情報提供を行います。現場に根ざした視点を共有することで、実効性の高い政策形成に貢献するとともに、ESCO およびエネルギーマネジメントが適切に評価され、活用される環境づくりを支援します。

3. JAESCO の行動計画

ここでは、JAESCO が掲げる理念および基本方針を踏まえ、デマンドサイドから省エネルギー・省CO₂を着実に進めていくための取り組みの方向性を示します。JAESCO としての役割や立ち位置を意識しつつ、会員各社の実務に根差した知見を基盤に、多様なステークホルダーとの連携を通じて、ESCO およびエネルギーマネジメントの普及と定着を図っていきます。以下の行動計画は、社会や制度、技術の変化を踏まえながら、適宜、見直していくものになります。

(1) 需要家に向けた具体的な活用イメージの提示 【基本方針(1)】

JAESCO は、ESCO およびエネルギーマネジメントが、機器の日常運用や更新の中でどのように活用され得るのかについて、具体的な活用イメージを整理し、発信します。伝統的 ESCO サービス、進化系 ESCO サービス、エネルギーマネジメントといった多様な取り組みを俯瞰的に整理し、用途や規模、課題に応じた考え方を提示することで、需要家が自らの状況に即した検討を行いやすい環境づくりを進めます。こうした情報整理を通じて、個別事例にとどまらない形での理解促進を図り、デマンドサイドからの省エネルギー・省CO₂の実践につなげていきます。

(2) 会員間連携を通じた実務知の整理と展開 【基本方針(2)】

JAESCO は、会員各社がそれぞれの現場で得てきた経験や工夫を持ち寄り、共通の知見として整理・蓄積する取り組みを進めます。分科会や意見交換の場を活用し、技術的な工夫に加え、事業スキームや運用面での対応、需要家との合意形成のプロセスなど、実務に即した視点での整理を行います。これらの知見を会員間で共有することで、個社の判断や検討を支えるとともに、ESCO およびエネルギーマネジメント分野全体の実務水準の底上げに寄与します。

(3) 現場知見を踏まえた制度・施策への橋渡し 【基本方針(3)】

JAESCO は、会員各社の実務を通じて明らかになった制度運用上の課題や改善の視点を整理し、行政や関係機関との意見交換を通じて共有します。制度と現場の間に生じる運用上の課題や留意点を可視化し、ESCO およびエネルギーマネジメントが円滑に活用されるための条件や考え方を整理します。こうした取り組みを通じて、現場の実情を踏まえた制度運用や施策検討につながるよう JAESCO としての橋渡し機能を果たします。

(4) 海外動向の把握と知見の還元 【基本方針における横断的取り組み】

JAESCO は、国際的なネットワークを通じて、海外における ESCO・エネルギーマネジメントの動向や事例を継続的に収集します。とりわけ、デマンドサイドの省エネルギー施策や、ESCO を活用した制度・市場の動きに注目し、我が国の状況との比較や整理を行います。得られた知見については、会員各社や関係者が自らの検討や判断に活用できるよう、国内向けに整理・翻訳し、情報共有の機会を通じて還元します。

(5) 協議会活動を支える運営基盤の整備 【基本方針における横断的取り組み】

JAESCO は、協議会活動を安定的かつ継続的に進めるため、情報発信や会員交流の仕組みを点検し、運営基盤の整備を進めます。会員サービスの内容や提供方法を適宜見直すとともに、JAESCO の活動成果や役割が分かりやすく伝わるよう、対外的な情報発信の充実を図ります。こうした取り組みを通じて、会員間のつながりを強化するとともに、新たな参加や連携を促し、ESCO・エネルギーマネジメント分野全体の持続的な発展を支える体制づくりを進めます。

4. 委員会・事務局による取り組みの目標と計画

ここでは、JAESCO の行動計画を踏まえ、今後おおむね 5 年程度を見据えた JAESCO 各委員会および事務局の目標と、その実現に向けた活動計画を示します。行動計画と同様、今後の社会や制度、技術の変化を踏まえつつ、各委員会・事務局において継続的に検討していくものになります。

(1) 市場委員会

市場調査と市場拡大をミッションとする市場委員会は、1999 年から続く市場調査を継続的に実施し、変化する課題や成長機会を整理していくことで調査結果が政策立案のための信頼できるデータベースとして定着することを目指していきます。また、社会からの問い合わせ対応に加え、説明会等の能動的な普及活動を推進し ESCO・エネルギーマネジメントに関する理解を一層深めていきます。これらの取り組みにより市場委員会は**行動計画(1)(3)**の実現に向けた役割を担っていきます。

(2) 会員サービス委員会

会員サービス委員会は**行動計画(2)**を踏まえ、会員に対するサービスメニューとして、施設見学会とオンラインセミナーを実施していますが、会員になるメリットを訴求するうえでは更なる「会員限定サービス」を毎年 1 件立案し試行していきます。直近では、会員と理事との交流会の検討を進めます。

(3) 広報委員会

広報委員会は、**行動計画(1)**の実現に向けた役割を担います。ESCO エネルギーマネジメントをガイドする代表的団体として定着することを目指します。そのため、各種パンフレットの作成、ニューズレターの定期発行等を通じ、当協議会 WEB サイトを中心とした有益な情報発信を推進します。

(4) イベント委員会

イベント委員会は、ESCO およびエネルギーマネジメントの認知度向上と普及拡大をミッションとし、会員やその顧客を対象としたセミナー開催や ENEX 展への出展を中心に活動してきました。今後は、**行動計画(1)**に関連して、イベント内容の創意工夫や動画コンテンツ等の活用により、「伝統的 ESCO サービス」に加え、市場ニーズに応じた「進化系 ESCO サービス」や「エネルギーマネジメント」について実際の活用イメージが伝わる事例を交えて発信していきます。また、こうした取り組みを通じて、当協議会の活動についてもわかりやすく紹介していきます。

(5) 国際関係・SDGs 推進委員会

国際関係・SDGs 推進委員会は**行動計画(4)**を具体化する委員会として、Global ESCO Network(GEN)と Efficiency Valuation Organization(EVO)等が開催するウェビナーの視聴と EP100 (Energy Performance 100)を主張する The Climate Group や Japanese Association of Smart Energy Worldwide (JASE-W)からの情報収集を中心に活動しています。引き続き GEN や EVO との交流を充実させていきたいと思えます。また、APEIA (Asia Pacific ESCO Industry Alliance) と Regional Partner としての関係を維持します。こうした活動により得られた成果を会員メリットに活かしていきます。

(6) ファイナンス委員会

ファイナンス委員会は、補助金の運用改善に関して政策当局と定期的な協議を重ねることで、これまでに大きな成果をあげてきました。例えば、補助金申請案件の省エネ率ハードルを中小企業案件について下げることや、補助対象機器の範囲を拡大することなどが出来ました。引き続き、**行動計画(3)**を実行する委員会のひとつとして更なる運用改善を目指すとともに、税制優遇や資金調達を新たな

テーマに位置づけて活動していきます。また、ファイナンス分野の知見を会員各社に拡げる仕組み作りや会員向けの勉強会を開催するなどして会員メリットを増強します。

(7) エネルギーマネジメント委員会

エネルギーマネジメント委員会は、**行動計画(2)**の実現に向けた役割を担います。需要家及び事業者が、エネルギーマネジメントの運用体系を共通認識し、より円滑に活用できる社会の実現を目指します。そのため有用性の周知、「手引書」の発行・改定、「事業説明資料」の作成等を行います。また、ファイナンス委員会と連携し、行政や関連機関への情報提供を行います。

(8) 事務局

JAESCO の多くの活動は委員会によって行われていますが、これを支えている「ひと」「もの」「かね」についても持続可能な仕組みが必要です。**行動計画(5)**を担う主体として、限られた資金のおよび人的リソースを最大限活用して、会員の満足度を高められるように努力するとともに、収支均衡となる協議会運営を目指します。

おわりに

本ビジョンは、JAESCO がこれまでに培ってきた実践知を土台として、JAESCO の未来に向けた方向性を共有するために策定したものです。デマンドサイドに立脚し、ESCO およびエネルギーマネジメントを通じて持続可能なエネルギー利用を実現していくという考え方は、今後も JAESCO の活動の基盤であり続けます。

本ビジョンは、将来像を固定的に示すものではなく、行動計画や委員会・事務局の取り組みを通じた実践の中で検証され、社会や制度、技術の変化に応じて見直されていくことを前提としています。JAESCO は、本ビジョンを道標の一つとして、関係する多様なステークホルダーとの対話を重ねながら、取り組みを深化させていきます。

JAESCO の活動は、各委員会および事務局の取り組みを中心に展開されます。これらを持続的に進めていくためには、人材、仕組み、財政面を含めた安定的な運営基盤の確保が重要です。日頃より JAESCO の活動を支えていただいている会員各位ならびに関係者の皆さまに感謝申し上げますとともに、本ビジョンが今後の活動のよりどころとして活用されることを期待します。

JAESCO ビジョン

— ESCO・エネルギーマネジメントの未来に向けて —

発行者：一般社団法人 ESCO・エネルギーマネジメント推進協議会（JAESCO）

発行年月：2026 年 5 月

お問い合わせ先：一般社団法人 ESCO・エネルギーマネジメント推進協議会 事務局

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2 - 5 - 5

TEL：03-3234-2228

E-mail：info@jaesco.or.jp

URL：https://www.jaesco.or.jp

※本冊子の内容は発行時点の情報に基づいています。

※無断転載・複製を禁じます。